令和７年第１回常滑市議会定例会代表質問発言通告

発言順序１　常翔会　「16 番」　伊　藤　史　郎　議員

１　施政方針について

伊藤市長の掲げる「安全」「安心」「成長」の3つの柱を市政運営の理念に、伊藤市長2期目3年目がスタートする。

昨年度から本年度にかけ、70 周年記念事業も行われ多くの市民の皆さんとともに歩む常滑市を実感した。各事業に関わった市の関係者や市民の皆さんに会派としても深い感謝と敬意を表したい。

一方で市を取り巻く状況に目を向けると、子育て環境の充実や、防災対策、観光振興、公共交通の充実など、取り組むべき課題が多くあることが施政方針に明記されている。それらの課題も会派として共通認識を持つ。今後も互いに知恵を出し、よりよい常滑市になるよう協力していきたい。伊藤市長のリーダーシップを期待しているところである。

そうした中、令和7(2025)年度当初予算では過去最大となる 287 億 7,000 万円が計上された。予算編成から見える市長の目指すべき市の方向性について、私たち会派においても議論を重ねてきた。

そこで、令和6年(2024)度の主要施策の成果や令和7(2025)年度予算に示された、「第6次常滑市総合計画後期基本計画」初年度にあっての施策の詳細と提案。今後の常滑市の課題及び成長戦略への政策提案を含めながら会派の意見を盛り込み、伊藤市長が今後どのような方針で市政を運営していくのか、を問う。

令和６年度の事業成果について

（１）令和６年度も様々な施策を推進してきた。特に防災関係や観光関係に注力し市民の安心安全、まちの成長を効果的に引き出していたと感じる。①市公式防災アプリ（とこなめ防災）の運用状況と②ダウンロード数及び③目指すべき数値はどうか。

（２）ツーリズム　ＥＸＰＯ　ジャパン 2024 への④市単独出展の成果と本年開催されるツーリズム　ＥＸＰＯ　ジャパン 2025 での⑤常滑市のＰＲ方法はどうか。

（３）５年ぶりに中国宜興市に訪問したが、⑥今後の交流方針と⑦新たに友好都市を結ぶ計画はないか。

（４）小中学校体育館へのエアコン設置については、令和７年１月３１日の市議会臨時会で建設費を可決したが、⑧予定どおり今年の夏に間に合う予定でよいか。

（５）宿泊税は令和７年１月よりスタートしたが、⑨令和７年１月の実績はどうか。⑩予定どおりの財源確保になっているか。また、令和７年はこれらを財源に観光施策を推進するが、⑪期待される効果は何か。

令和７（2025）年度の施策について

（６）いよいよ４月１日に、地方独立行政法人「知多半島総合医療機構」としてスタートするが、多くの市民は戸惑いや心配もある。診療科目の分担により市民が不安に思わないようスタートで混乱なく進めてほしいと願うが、⑫どのように不安を払拭していくのか。また、地域の皆様のニーズに合わせた切れ目のない医療を提供できるよう、そしてその機能が継続的に維持されるよう、その環境づくりのために尽力するとあるが、⑬具体的には何を尽力していくのか。また、慣れるまでの間、⑭市民の相談窓口の必要性を感じるがどうか。⑮病院側の救急受入れ体制はどのように変化するのか。

（７）栄養バランスの取れた給食を提供するために、国の交付金を活用して、小中学校１食あたり 20 円を市が負担するが、国では給食費の無償化も議論されている。国の動向には注視するが、市としても⑯給食費無償化を働きかけたらどうか。

（８）いじめ、虐待、家庭環境、貧困、発達障害など様々な課題を抱える児童、生徒、保護者、一人一人のニーズに対して適切に対応するため、スクールソーシャルワーカー、学校生活支援員、学校介助員をそれぞれ増員するが、⑰問題は人員確保とその質である。どのように取り組んでいくのか。

（９）図書館・文化施設のあり方を検討した結果、図書館は単独で整備する方針となり、令和７（2025）年度はその検討を行う。⑱検討会のスタートはゼロベースで取り組む計画か。また、⑲計画策定に向けて議会の意見の反映はどのようなスキームを考えているか。

（10）資源物を搬入する人の利便性向上を図るため、ウィンボとこなめ北東部に資源回収ステーションを増設し、受付時間が一部拡充され利便性が向上する。計画では搬入推奨ルートとして西からのアプローチが示されているが、しかしながら、南からの利用者は文化会館方面から搬入するケースが

考えられる。今でも週末は交通渋滞があり、多くの市民からは改善を求められている。資源回収ステーションの供用開始が始まれば、搬入のための右折車により時には車両が滞留し新たな箇所での渋滞も心配される。**⑳搬入車のための右折レーンの設置や、同時に慢性的な渋滞緩和策のために栄町５丁目交差点の一方向信号の導入（多屋町交差点導入済み）や文化会館三叉路交差点の南側の歩道部分やボートレース南駐車場の一部を活用し、道路改良を施し、同時に横断歩道も利用者に合わせた形に、移設し、左折カーブのスムーズ進行**など手掛けていくべきである。市の考えはどうか。

（11）グルーンは、日常生活を支える生活圏交通として必要な移動を確保し、「まち」の活性化、魅力や価値の向上を図るため、運行しているが所管が市民協働課に移される。原資はボートレース事業基金で充当され、一般会計で事業を実施していくことと思う。**㉑運行事業者は入札**とするのか。**㉒当初予算では約 4,000 万円の増額となるが要因**は何か。**㉓持続可能な運行のためどのような工夫**を考えているか。

（12）大曽公園の新たな魅力づくりのため、公園全体の再整備基本設計を実施する。エリアゾーンの配置計画の一部には近隣との騒音による不安もある。また、今後の広がりを考えると大曽池の活用も有効に感じる。**㉔配置計画の見直しは可能**か。また、**㉕大曽池の活用**について考えたらどうか。**㉖味覚の道からのアクセス整備**は最短でいつの時期になるか。

（13）小脇公園は魅力的な公園である。令和７年（2025）度は木製テラスを更新するが、大曽公園同様に市内の主たる公園の整備計画を策定することも大切だ。南部地区の交流拠点として、**㉗小脇公園にスケートボードやＢｉｃｙｃｌｅ　Ｍｏｔｏｃｒｏｓｓ（バイシクルモトクロス）ＢＭＸの聖地として整備**することも一考である。また、**㉘前山ダム公園には、市民の多くが楽しめる日本グラウンド・ゴルフ協会認定コースのグランド・ゴルフコースを造成**し、新たな交流拠点としたらどうか。そうした考えはないか。

（14）「観光」を常滑市の新たな成長基幹産業と捉え、より積極的に推進するために、宿泊税を活用した攻めの観光施策が推進される。これらを力強く進めていくために、４月から観光推進主体を一般社団法人とこなめ観光協会に一元化し、推進体制を強化する。思い切って、一般社団法人とこなめ観光協会を**㉙とこなめコンベンションビューローに名称変更**し意気込みの一つとして新名称で新たなスタートしたらどうか。

（15）伝統的工芸品である常滑焼を、産業として次世代に継承していくため、関係団体と連携して、事業所における後継者の育成に対して助成するが、㉚見込みはどうか。㉛参考にしている伝統的工芸品後継者育成の事例はあるか。

（16）公共施設の適正な維持管理を行い、老朽化した施設を計画的に修繕し、長寿命化を図るため、令和７年度は常滑中学校北館、西館の長寿命化改良工事や市体育館の大規模改修工事が行われるが、資材や人件費の高騰により予定していた積算より大幅に増加したと思う。㉜どれほど高騰しているか。入札不調になる場合も想定されるが、㉝その場合の対応策はあるか。令和８（2026）年度以降もこの現象は続くと予想しているか。㉞計画の見直しも考えられるか。

（17）ボートレース事業は一般会計への繰り出しにより市の財政に大きく貢献している。令和７（2025）年度は売上げや収益を見込めるレースもあり、期待するが、令和６（2024）年では 24 場中、総売上げは最下位であった。何としてでも上を目指していかなければならない。㉟売り上げ向上策としてモーニングレースについて中央団体の意見はどうか。また、㊱ＳＧレースやプレミアムＧＩなど誘致のためのロビー活動の拡充は考えているか。令和6(2024)年のボートレース総売上げは2兆 5,215 億 4,087 万 4,000 円で、そのうち、電話投票の売上げは2兆 25 億 6,989 万 6,000 円であり、いかに電話投票が売上げに貢献しているかわかる。ボートレースとこなめの売上げ向上に、電話投票での購入は外せない。関係者との意見交換では「ファンから選ばれるレース場」であってほしいと言われている。電話投票で㊲選ばれるレース場として何が必要と考えるか。

常滑市の課題について

（18）中部国際空港にある中部空港警察署が地盤沈下のためターミナルビルへ一時移転する。隣接する常滑市空港消防署も建物の傾きが発覚し、今後の方針を早急に検討しなければならない。今後、㊳常滑市空港消防署をどうしていくつもりか。㊴建て替えか移転か。㊵建て替えの場合はどれほどの費用が発生するのか。㊶移転の場合、移転先はあるか。

（19）とこなめ観光協会は陶磁器会館に移転したが、会館には耐震性がないことが、移転発表後に示された。早急に今後の陶磁器会館の方向性を考えな

くてはいけないが、**㊷この検討はどの様に進めていく**のか。

（20）教育委員会では、西浦南小学校の児童数が減少していくことに伴い、その方向性を見出すため関係者や保護者との話し合いを進めている。決定していることは何もないが、近々の課題であることは間違いない。将来を見据えたとき、南部地区の西浦北小学校や小鈴谷小学校、北部地区の三和小学校や大野小学校も児童数の減少はあると予測される。10 年先、20 年先を見据え、持続可能な選択を考える上で、**㊸小中一貫校構想も検討すべき**と思うが、その考えはないか。

（21）令和６（2024）年度一般会計当初予算ベースの歳入歳出収支見込では、財源不足額として、令和７（2025）年度４億 5,100 万円、令和８（2026）年度５億 1,800 万円、令和９（2027）年度３億 1,400 万円、令和 10（2028）年度２億 1,500 万円となっていたが、令和７年度当初予算ベースの歳入歳出収支見込では、財源不足額が、令和７（2025）年度７億 3,000 万円、令和８（2026）年度７億 4,400 万円、令和９（2027）年度 11 億 3,000 万円、令和 10 年度 12 億 8,900 万円と大幅に増加している。健全な財政運営が確保できなくなる可能性も明記されている。財政調整基金も枯渇し、ボートレースまちづくり基金に頼らなくてはいけないが、経済状況によりボートレースの好調もいつまで続くか心配な面もある。人件費高騰による委託事業費の増額や職員地域手当の基準見直し、防災減災対策の強化や建設資材の高騰による公共工事の負担増、福祉施策への対応や子育て支援の充実による負担増など必要な経費がかさむ中、厳しい財政状況と予測せざるを得ない。**㊹今後の財政運営の方針**はどうか。

常滑市の成長について

（22）愛知県国際展示場でのイベント増やインバウンド需要の増大により、宿泊者数も増加していく傾向だ。それらの交流人口を市域に効果的かつ効率的に取り込むため、シャトルバスを運行する。大きな期待を寄せるところではあるが、これらの経済効果を市内全域に波及させる仕掛けも大切だ。特に南部や北部への誘客は現段階での課題である。市域全体が潤い成長させていくことは、まち全体の活性化にもつながる。**㊺南部北部の活性化支援策**は何か。

（23）新たな産業用地の創出については、令和５（2023）年度末に、西知多道

路（仮称）多屋インターチェンジ予定地周辺を優先検討地区として決定し、県の用地造成事業審査会の開発用件に沿った検討を進めていくが、並行して市内未利用地への企業立地や常滑市のニーズに合わせて企業の誘致を進めていく必要がある。常滑市のおかれている現状や健全かつ効果的な成長を鑑みると、ホテル誘致は全市を挙げて取り組むべき課題である。**㊻大手ホテル事業者や金融機関、大小様々な不動産会社など積極的に誘致活動**を図るべきと考えるがどうか。

(24) 中部国際空港代替滑走路の着工式も終え、いよいよ完全 24 時間化を目指し、第１歩が進みだした。沖合の２本目滑走路はまだまだ時間を要することと推察するが、早期に進めるためには航空需要の増大が必要である。空港所在地としての常滑市として、**㊼中部国際空港利用促進条例を制定**し、定期的にキャンペーンなどを催し、市民が積極的に中部国際空港を利用するよう働きかけたらどうか。

発言順序２　繋　「８番」　大　川　秀　徳　議員

１　施政方針について

令和７年度の施政方針を受け、生産年齢世代＆子育て世代のど真ん中の意見と、市民の皆様の声を、エッセンスとして代表質問し、議論を深め、市長が掲げる「とことん住みたい　世界とつながる魅力創造都市」を一緒に作り上げたい。

市税収入と財政運営について

令和７（2025）年度の当初予算は 287 億 7,000 万円で過去最大となる。令和７（2025）年度当初予算の概要では、平成 28（2016）年度から当初予算は上がり続けているが、反対に当初予算規模に占める市税収入の割合は減少している。

ボートレースまちづくり基金からの一般会計への繰入はなくてはならないが、令和６（2024）年のボートレースとこなめの売上げは 24 場中 24 番目となった。

今後の物価、建設資材、人件費の高騰は下がる見込みは少なく、様々な環境変化に柔軟に対応できる財政基盤を確立していくためにも、自主財源の市税収入増加とボートレースとこなめの売上向上による一般会計への繰入金の安定的な拠出と増加が肝要なことと考える。

厳しい財政状況にあっても、明るくもっと元気な常滑の未来づくりをどのように進めていくのか、市長の抱負と決意を問う。

本市発展のターニングポイントになった中部国際空港セントレアについて

開港から 20 周年を迎えた。

先日、国土交通省から空港代替滑走路着工の許可がおり、現滑走路との２本体制で発着能力が 1.2 倍となり、国際便・国内便の復活や新規就航されれば、中部国際空港セントレアを利用する来訪者が増え、宿泊税やインバウンド消費も増えるチャンスが国際空港後背地の常滑市にはある。

常滑市が中部国際空港セントレアから、引き続き好影響を受けるために、協力事業や支援事業等の連携が肝要なことと考えるが、中部国際空港セントレアへの協力・支援について、市長の考えを問う。

来訪者の満足度の増加、国内外のインバウンド消費額の増加、満足した来訪者の口コミ数の増加が期待できる空港島シャトルバス運行事業について

宿泊税収入の半分を活用する。この事業への意気込みを問う。

次に、基本目標の１つ目「子どもが健やかに育ち、輝けるまち」を実現するための主な事業について

食材価格の高騰は、原材料費や物流費、人件費などのコスト増加で、今後も続く見込みである。野菜の購入を控えるなど、食卓の栄養バランスの確保に苦労する家庭も少なくない。

モノの値上げの天井が見えてこない中で、さらに給食費の引上げがあるのではないか、子育て世帯には心配が絶えない。

住んでいる自治体で、給食費の無償化、給食費の引上げと格差ができている。格差解消のための国や県への要望の現状はどうなっているか。

令和６年度から設置した子ども家庭センターの成果を問う。

児童育成クラブが集約実施等で地理感のない校区外の施設を利用する場合の自然災害等への避難対応について問う。

基本目標の２つ目「創造性や豊かな心を育むまち」を実現するための主な事業について

地域未来塾について問う。

昨年度から充実を図る点はどこになるか。また、民間委託に何を期待するか。

不登校及びクラスに入りづらい不登校傾向の児童生徒が安心して過ごせる「居場所」について問う。

教育支援センター「スペースばる～ん」と校内サポートルームの連携の強化に期待する成果は何か。

不登校の児童生徒を対象に、専門職が家庭を訪問するアウトリーチ支援の現状はどうか。

不登校及びクラスに入りづらい不登校傾向が若年化している。未然防止と早期発見、早期対応につなげるための方策は何か。

図書館基本構想の策定について問う。

基本構想策定委員会のメンバー構成はどう考えているか。

単独整備の総予算はどれくらいを想定しているか。

今後、市民ワークショップや基本構想策定委員会を経て、基本構想を策定する流れになると思うが、この検討中に単独整備の方針を変更することはあるか。

令和８（2026）年アジア・アジアパラ大会への機運醸成について問う。

常滑市で開催予定の実施競技（フェンシング・ＢＭＸフリースタイル・スケートボード・ｅスポーツ）を児童生徒が体験したり、出場選手と交流する機会を作ることができないか。

日本財団パラスポーツサポートセンターより寄贈された車いすの活用をどうするか決まっていれば問う。

令和 10（2028）年に愛知県国際展示場Ａｉｃｈｉ　Ｓｋｙ　Ｅｘｐｏにて、技能五輪国際大会の開催が決定した。国際大会の開催を契機に、海外選手との交流事業を企画できないか。

陶芸研究所について問う。

陶芸研究所の耐震工法検討のための基本調査の進捗状況を問う。

平和学習派遣事業について問う。

令和６年度の募集状況と成果を問う。また、今後、広島以外への派遣は検討するのか。

基本目標の３つ目「共に生き、支えあい、安心して暮らせるまち」を実現するための主な事業について

いよいよ４月１日より、常滑市民病院と半田市立半田病院が経営統合し、常滑市民病院は「知多半島りんくう病院」、半田病院は「知多半島総合医療センター」に名称が変わる。

知多半島総合医療センターは知多半島りんくうの病院５キロメートル圏内に移転することで、市民の命を守る環境がさらに整備される。

緊急車両退出路整備事業や二つの病院を結ぶシャトルバスの試験運転事業も利用者にとって心強い事業である。

そこで問う。

経営統合後、診療科の増減はあるか。

知多半島総合医療センターへ救急搬送のアクセスを改善させる緊急車両退出路整備事業の進捗状況はどうか。また、運用開始はいつになるか。

令和７年（2025）度の当初予算で、知多半島総合医療機構事業費は８億円となっているが、今後の推移をどう予測しているか。

知多５市５町による婚活イベント「知多半島で縁むすびプロジェクト」の実施方法で決まっていれば問う。

基本目標の４つ目「安全な暮らしを守るまち」を実現するための主な事業について

令和６（2024）年１月に発災した能登半島地震における死因として最も多いのは圧死で、建物の下敷きになってからの死因として、窒息・呼吸不全・低体温症・凍死・外傷性ショック等を含めると、約９割の方が建物の倒壊で亡くなっている。

建物の倒壊が多かった原因として、昭和 56（1981）年以前の旧耐震基準で建てられた住まいが多かったことが指摘されている。

そこで問う。

耐震診断の進捗状況を問う。また、木造住宅密集地域の防災性の向上策や住環境の改善策は、進んでいるか。

能登半島地震では、断水や下水道管の破損等による、トイレや水の問題も指摘されている。

避難所生活が長くなった場合のトイレや水の問題について、トイレカーの導入、広域避難所へのマンホールトイレや直結給水できる水飲み場の整備が必要ではないか。

応急給水栓の設置状況と今後の設置計画を問う。

市民が見るだけのパレード的な総合防災訓練から、簡易トイレや段ボールベッドの設営など、市民が体験する総合防災訓練へとやり方を見直し、令和７（2025）年度の鬼崎地区開催により、全ての地区で実施されることになる。

令和８（2026）年度からの総合防災訓練のやり方と、自主防災組織強化策をどう考えているか。

消防団員の減少を食い止めるため、出動報酬を国の基準に準じた金額への改正や活動環境等の処遇改善について問う。

令和６（2024）年度から消防団の活動や行事の見直しを行ったが、その結果を受けてどのように消防団の体制強化を図っていくか。

土曜午後の受入れや、新施設に資源回収エリア、既存施設に刈草・剪定枝

回収エリアと区別することで、利便性が向上される資源回収ステーションについて問う。

増設した資源回収ステーションの供用開始はいつになるか。また、既存の資源回収ステーションの仕様変更に伴う臨時休業等は計画されているか。

資源回収ステーションの区別により、刈草・剪定枝の受入れる量を増やす考えはあるか。

基本目標の５つ目「快適に過ごせる生活基盤が整備されたまち」を実現するための主な事業について

新設した有料の常滑駅東駐輪場の利用状況と、常滑駅東ロータリーの今後の整備計画を問う。

公共下水道接続報奨金の現状はどうか。

全国で上下水道管の老朽化による事故が発生している。高度経済成長期に敷設された水道管が一斉に耐用年数を迎えていることなどが原因とされている。上下水道管の老朽化による事故が起きないよう常滑市の維持管理の現状を問う。

オンデマンドタクシーｍｏｂｉの実証実験の結果をどう捉えているか。

市長は、公園の整備や遊具の改修に注力されている。子供の遊び場が増え、私自身も近隣市町の公園に出掛けることが少なくなった。

既存公園の遊具のリニューアルや大曽公園の再整備による新たな魅力づくりについて、市長の思いを問う。

次世代の小規模公園（街区公園・農村公園・児童遊園）のあり方をどう考えているか。

常滑市都市計画マスタープランの部分改定について問う。

広域交流拠点のさらなる機能強化にあげられた、商業地が立地するりんくう地区周辺の未利用地である旧常滑市民病院跡地の活用促進の現状を問う。

やきもの散歩道地区など貴重な財産である歴史的な景観の整備・保全に努めるとともに、地域において、修景による良好な景観の創出を図るとされている。古い町並みを楽しむ観光地だが、個人の所有物なので維持管理もさまざまである。常滑市の一番の観光地である「やきもの散歩道」の古い町並み等の魅力を未来に残すにはどうしたらいいのか、市長の考えを問う。

基本目標の６つ目「魅力にあふれ、人が集い、進化するまち」を実現するための主な事業について

シティープロモーションの一環として活用されるふるさと納税について問う。

令和７（2025）年９月をもって、ふるさと納税のポータルサイトでのポイント付与が受けられなくなるが、その影響をどう予測しているか。また、例年とは異なり、令和７（2025）年９月末にも駆け込み需要への戦略はあるか。

伝統的工芸品産業担い手育成事業費負担金について問う。

陶の森の研修生の現状と過去３年の修了生が常滑市で仕事ができているかについて問う。

農業・漁業について問う。

家畜感染症対策は県が主体的に対応するが、今回の鳥インフルエンザで明らかになった市の課題や対策はあるか。

栄養塩対策について、県内他地区の管理運転をどう評価しているか。また、本市が参考にできる効果的な取組はあるか。

令和６（2024）年９月に単独参加した「ツーリズムＥＸＰＯジャパン2024」の成果や手応えと、令和７（2025）年９月に愛知県国際展示場Ａｉｃｈｉ　Ｓｋｙ　Ｅｘｐｏで開催される「ツーリズムＥＸＰＯジャパン 2025愛知・中部北陸」で常滑市の何をＰＲの目玉とするのかを含めた意気込みを問う。

陶磁器会館の耐震診断の結果が芳しくなかったことを受け、陶磁器会館のあり方の検討の進捗状況を問う。

物価上昇の影響を緩和するため、国の交付金を活用し、対象店舗で使える一人あたり 1,000 円クーポン券をすべての市民に配布する事業について問う。

郵送料の値上げ等を勘案し、対応可能な世帯に向けたデジタルクーポンの実証実験を行う考えはあるか。

基本目標の７つ目「みんなで創る、持続可能なまち」を実現するための主な事業について

業務の生産性向上による市民サービスの質の向上を図るとともに、職員が働きやすい職場にするため、市役所及び保健センターの開庁時間が短縮されるが、市民への効果を市民にわかりやすく説明を願う。

男女共同参画推進啓発事業について問う。

生理の貧困問題の対策として、小中学校の女子トイレに生理用品の設置をされるが、設置する生理用品に、生理や相談しにくい子供が抱える悩みの窓口を紹介するチラシやＱＲコードを添えてはどうか。

老朽化した施設を計画的に修繕し、長寿命化を図る事業について問う。

常滑市体育館の大規模改修について問う。

古くなった設備の更新も検討されるが、その設備が必要か必要でないのかの検討はしたか。

常滑市体育館の駐車場は集客のある催し物が開催される時にのみ、駐車場が不足する。常滑公園の芝生広場を開放することもあるが、雨天時には芝生広場への乗り入れができない。臨時駐車スペースを用意する考えはないか。

最後に、ボートレースとこなめについて問う。

若年層向け新番組ＹｏｕＴｕｂｅ動画配信に、１億 3,200 万円を捻出する。事業の詳細と現行のボートレースＹｏｕＴｕｂｅ番組とのセールスポイントの違い等の戦略を問う。